

自他の価値を尊重することができ、夢や目標、学びに向かう意欲を持って生きる  
『自己肯定感』を育むために ～乳幼児期編～

生涯にわたる人間関係の出発点、基盤となるのは、子どもと親しい大人との「**信頼に基づく心理的な絆(愛着)**」です。安定した愛着を形成すると、人間関係が広がる時の緊張や不安をしずめ、他の子どもや大人と楽しく過ごすことができるようになります。

いつものところに  
いちばんの大事!

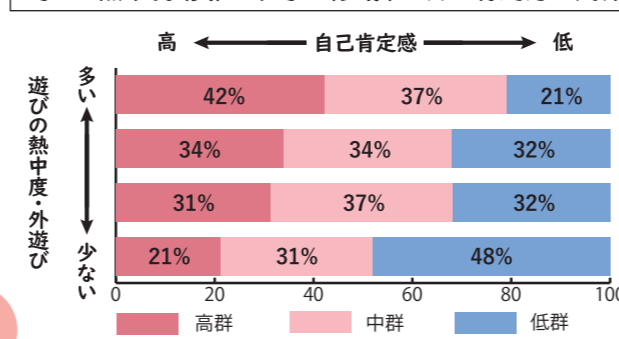


家族の時間・心のつながりを大切にしましょう

- 子どもには、**愛着関係**を通して、
  - 自分自身を大切にすること (自己受容感・自尊心)
  - 自分への信頼感 (自己信頼感)
  - 他人を愛すること・信じること (他者への基本的信頼感) が育まれていきます。

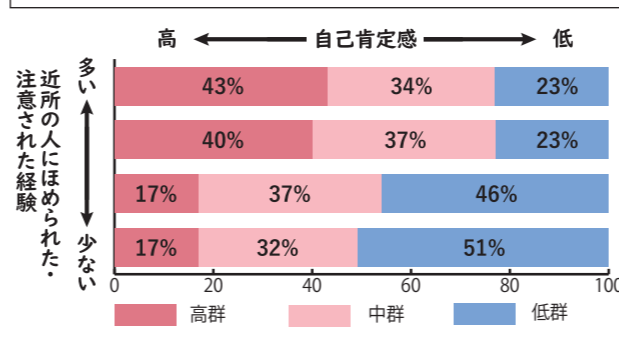


遊びの熱中度(質)・外遊び(多寡)と自己肯定感の関係



子どもの頃、「遊びに夢中で時間がすぐ過ぎてしまった」「新しい遊びを考えた」など、遊びの熱中度が高く、外遊び(集団での外遊び、自然の中での遊び等)が多かった人は、自己肯定感が高い傾向があります。

近所の人にほめられた・注意された経験と「自己肯定感」の関係



先生や友だち、近所の人などまわりの人からほめられた経験が多かった経験に加え、注意された経験が多かった人ほど、自己肯定感が高い傾向があります。

「子供の頃の体験がはくわくとその成果に関する調査研究」(国立青少年教育振興機構、平成30年3月)を基に作成

鳥取県のめざす幼児の姿は、

遊べる子どもです。

子どもの遊びには、発達や成長に欠かせないたくさんの体験が含まれています。子どもは夢中になって遊ぶ中で、様々な人・もの・ことに出会い、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育みながら、心と体を一緒に成長させていきます。

遊びは、大切な学びです。

遊びの広がりイメージ

- 遊びたい
- 遊び出す
- 遊びこむ
- 遊べる

00ができてうれしい。次は、何に挑戦しよう。

ボールを速く投げたいの [自分なりの目標をもつ]

だれか、いい作戦ある? [友だちの考えを取り入れる]

逃げればかりじゃなくて、がんばってキャッチしようよ [自分の考えを伝える]

負けたのはどうしてかなのパスを回す作戦がいいの [よりよい作戦を選ぶ]

パスをして、敵の近くから投げたらどうかなの [新しい作戦を生み出す]

この作戦で、頑張ろうの [共通の目的をもつ]

OOちゃんみたいに投げてみたいのまねしてみようの [体の動きを工夫する]

この作戦で、頑張ろうの [共通の目的をもつ]

【5歳児3ドッジボールでの作戦会議】

「遊べる」とは、自己発揮をし、様々な葛藤体験を乗り越えながら友だちと関わって十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態です。この遊びを通して得た満足感や達成感が自信となり、新たな遊びへのエネルギーを生み出すとともに、小学校以降の学びの土台となる力を育みます。

園で大切にしている子どもの姿



県内の園では、「遊べる子ども」の育成をめざして、友だちとたっぶり遊ぶ時間と場を保障し、心ゆくまで遊べる環境を子どもとともにつくっています。また、子どもの興味・関心、思いや願いをとりえ、一人一人のよさや可能性を生かす遊びの展開に努めています。園と家庭が連絡を取り合い、大切にしたい子どもの姿を共有し、子どものよさを認めたり、生活につながりを持たせたりすることが、お子さんの健やかな成長を支えています。

園は地域に開かれた子育て支援の役割として、未就園の保護者の子育ての相談にも応じています。機会を見つけて、気軽に園へ出かけてみませんか。

子どもと向き合う  
とっどりの子育て・親育ち  
すこやかな“とりっこ”の成長を共に



とっどりの家庭教育  
たくましく・夢をもって・  
自立できる子を育てる

とっどりの幼児教育  
遊べる子ども  
～遊びを通した育ちと学びを未来へつなぐ～